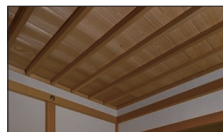


くら 比べてみよう！

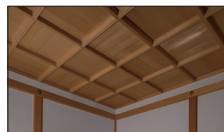


ほんまるごてん なか ある たてもの へ や ふすま え てんじょうらんま かなぐ ちが
 本丸御殿の中を歩くと、建物(部屋)ごとに襖絵や天井、欄間、金具が違うことに
 きつ 気付きます。それは、それぞれの建物が、「権威と格式(身分や家柄、上下関係)」
 に合わせて、使われ方が違っていったからです。襖や壁の絵、天井、欄間、金具など
 を比べながら、各建物の役割を考えてみましょう。

てん じょう 天井



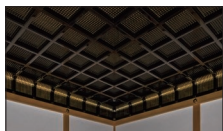
きおぶちてんじょうげんかん
 竿縁天井(玄関)



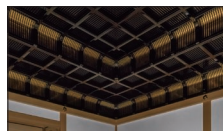
ごうてんじょうおもてしよいん
 格天井(表書院)



おりあ ごくみごうてんじょうおもてしよいん
 折上げ小組格天井(表書院)



くろしほりおりあ ごくみごうてん
 黒漆塗折上げ小組格天
 井(対面所)



くろしほりにじゅうおりあ ごくみ
 黒漆塗二重折上げ小組
 格天井(対面所)



くろしほりかなぐつきごうてんじょう
 黒漆塗金具付格天井
 (上洛殿)



くろしほりにじゅうおりあ まきえ
 黒漆塗二重折上げ時縁
 付格天井(上洛殿)

らん ま 欄間



きやらんま げんかん おもてしよいん
 鞘欄間(玄関・表書院)



おきらんま げんかん おもてしよいん
 箒欄間(玄関・表書院)



はならんま おもてしよいん
 花欄間(表書院)



はなまごうしらんまじょうらくてん
 花狹間格子欄間(上洛殿)



おびくらんま じょうらくてん
 彫刻欄間(上洛殿)

かな ぐ 金具



はいかなぐ ろうか
 唄金具(廊下)



くきかく げんかん
 釘隠し(玄関)



くきかく さぎのろうか
 釘隠し(鶯之廊下)



くきかく じょうらくてん
 釘隠し(上洛殿)



ひきてかなぐ げんかん
 引手金具(玄関)



ひきてかなぐ おもてしよいん
 引手金具(表書院)

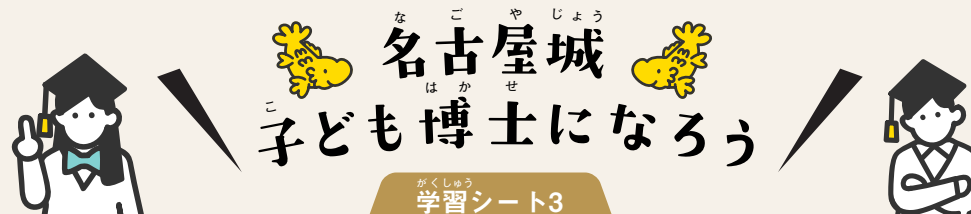


ひきてかなぐ たいめんじよ
 引手金具(対面所)



ひきてかなぐ じょうらくてん
 引手金具(上洛殿)

なごやじょうそうごうじむしよ
 名古屋城総合事務所



ほんまるごてん ごうか
 一本丸御殿は、なぜ豪華なのでしょう

えど しょうぐん むか
 江戸の将軍をお迎えする
 宿泊施設として
 使われました

なごやじょうほんまるごてん おわりはんしゅ
 名古屋城本丸御殿は、尾張藩主の
 す 住まいかつ藩の政治を行う場所として、
 1615年(慶長20)に建てられました。

1620年(元和6)、藩主の住まいと
 せいじ ば にのまるごてん うつ
 政治の場が二之丸御殿に移ってからは、
 しょうぐん しゅくはくせんじょう しせつ
 将軍の宿泊専用の施設となりました。

1634年(寛永11)、江戸幕府3代
 しょうぐん とくがわいえみつ きやうと む とちゅう
 将軍・徳川家光が京都へ向かう途中

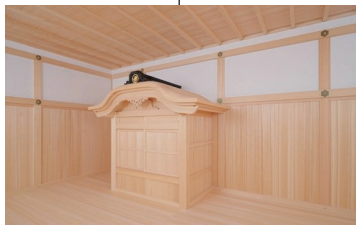
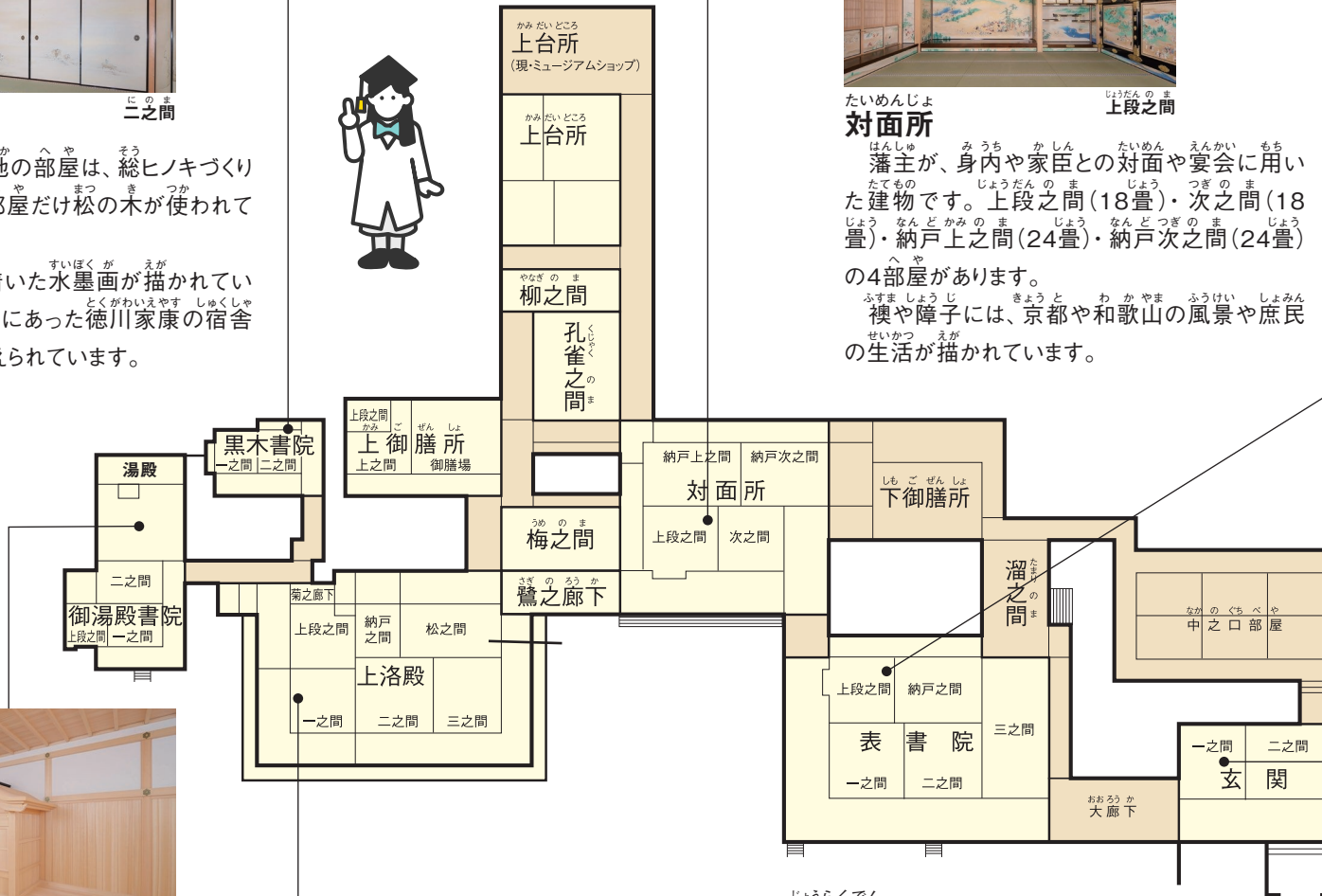
しゅくはく まえ じょうらくてん
 で宿泊するにあたり、その前に上洛殿、
 くろきしよいん ゆどのしよいん あら
 黒木書院、湯殿書院などが、新たにつ
 くられました。将軍が宿泊する施設なの
 で、とても豪華で美しく、お城建築の最
 こうけつさく よ
 高傑作と呼ばれていました。

1930年(昭和5)に、天守といっしょ
 こくほう してい
 に国宝に指定されましたが、1945年
 しょうわ なごやだいくしゅう も
 (昭和20)の名古屋大空襲で燃えてし
 まいました。しかし、も まえ しゃしん や
 すめん のこ
 図面が残っていたので、2018年
 へいせい どうじ すがた ふくげん
 (平成30)、当時のままの姿に復元す
 ることができました。





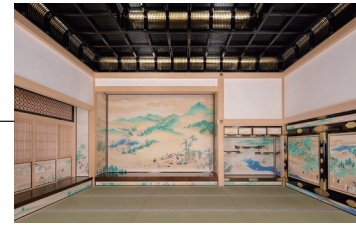
黒木書院
 本丸御殿の他の部屋は、総ヒノキづくりでしたが、この部屋だけ松の木が使われています。
 襖には落ち着いた水墨画が描かれています。清須城内にあった徳川家康の宿舎を移築したと伝えられています。



御湯殿書院
 将軍専用のお風呂です。現在の湯舟はなく、床下にある釜で湯をわかし、湯気を送り込むサウナ式の蒸風呂でした。浴室(湯殿)の他に、上段之間・一之間・二之間の3部屋があります。



いちのま 一之間



対面所
 藩主が、身内や家臣との対面や宴会に用いた建物です。上段之間(18畳)・次之間(18畳)・納戸上之間(24畳)・納戸次之間(24畳)の4部屋があります。
 襖や障子には、京都や和歌山の風景や庶民の生活が描かれています。



表書院
 本丸御殿の客間です。上段之間(15畳)・一之間(24畳半)・二之間(24畳半)・三之間(39畳)・納戸之間(24畳)の5部屋があります。上段之間には藩主が座りました。襖や障子には、花、鳥、小動物が描かれています。



玄関
 本丸御殿を訪れた人が、まず通される待合室です。玄関といっても、一之間(18畳)・二之間(28畳)の2部屋からなっています。
 壁や襖には、竹林と勇ましい虎や豹が描かれています。

上洛殿
 江戸幕府3代将軍・徳川家光の宿泊に際し、増築されました。上段之間(15畳)・一之間(18畳)・二之間(22畳)・三之間(21畳)・松之間(20畳)・納戸之間(10畳)の6部屋からなっています。
 彫刻欄間や天井板絵など、本丸御殿の中で最も豪華な建物です。